

前 書 き

北海道方言研究会

会長 大鐘秀峰

このたび北海道方言研究会創立 50 周年に際し、多くの論文や随想が寄せられ、北海道方言研究会叢書第 7 巻として刊行できることに厚く御礼申し上げます。ご多忙の中、玉稿をお寄せくださった皆様に心より感謝申し上げます。会員、非会員を問わず、道内外から寄稿されたことにも大きな意味と喜びを感じています。その広がりこそこれまで本会を支えてこられた先人の方々の各方面にわたる研究活動の賜物であると思います。

収録された論文としては、北海道方言海岸方言（浜ことば）に関する史的考察のほか、札幌市や全国各地の方言およびアイヌ語に関する音韻論的考察、また、北海道方言に関する語彙変化や文法論、さらに北海道内外の滞日外国人をめぐる社会言語学的考察などが寄せられました。随想としては、過去 50 年を視点とした言語現象を振り返るものや、北海道方言などの語彙の考察を含むもののほか、地域社会における方言研究のあり方など示唆に富むものが集まりました。

創立 50 周年を記念して座談会も開催しました。座談会には、初代の事務局長を務められた道場優先生、二代目会長の菅泰雄先生、そして、見野久幸先生の 3 人の先生をお招きしたほか、現役員が出席しました。座談会では、創設期に奔走された初代会長の小野米一先生に関わるエピソードが多く聞かれました。いずれの談話も記録には残っていない北海道方言研究会の活動の始まりに関わる貴重な内容でした。本叢書に掲載されていますのでぜひご覧ください。

本会は、北海道教育大学旭川校の小野米一先生が北海道における方言研究の発展を願い、道場先生、城野先生の 3 名で 1974 年 7 月に発足しました。移住を中心として成立した北海道において全国では見られない共通語の成立過程を有することを始めとして、北海道における方言研究の意義を見出された小野先生は学生を率いて北海道各地の言葉の記述研究を精力的にされるとともに、言葉に関心を持つ全国の研究者及び一般諸氏に声を掛けながら本会の活動を推進されました。

これまで重ねた例会は、242 回に上ります（令和 7 年 2 月現在）。発表内容は、北海道の方言に関することを始めとして、言葉に関する多方面の内容に渡ります（会員になると HP 内アーカイブスでこれまでの発表内容を見ることができます）。それらの発表を収録した会報も今春で 101 号に達します。また、これまで発行した本会の叢書 6 巻の中には、増毛町と松前町で大規模な調査を実施したそれぞれの調査結果報告書が含まれています。

本会の発足後間もない 1977 年に 500 名もの方々を調査対象者とした実施された増毛町調査について、50 周年を機に約 50 年ぶりに再調査をすることを今年度計画しています。新しい質問項目を含めながらも 1977 年調査の結果がどのように変容しているのか実態を捉えることを目的としています。その時にお話をうかがった当時中高生から若年層だった方々に再調査できると個人内の言語変化が確認できるかもしれません。

以上のように 50 年という長きにわたる本会の活動は、しっかりとした軌跡を残していることが何よりの成果だと考えます。これを継承、発展させていくのが私たちの仕事です。言葉の研究をとおして言葉の仕組みを知るとともに、北海道の過去、現在、未来を生きる人々の豊かな言語生活を描き出すことができればと考えます。皆様におかれましては北海道方言研究会へのますますのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。